

岡山県障害者（児）施設サービス自主評価結果（公表用）

施設名：蒜山慶光園

施設所在地：岡山県真庭市蒜山上福田 1201-23

施設種別：障害者支援施設（施設入所支援・生活介護）

運営主体：社会福祉法人 慶光会

施設長名：立岡 一夫

評価月日：令和3年3月20日

評価項目（中項目）	評 価 結 果
I-1 理念・基本方針	<p>評価：A 法人の事業指針は明文化されており、年度初めの全体会議や、月々の支援員会議などを利用して職員間で確認し、日々の支援に徐々に活かす土壌づくりを行っている。 広報誌、ホームページを用いて事業指針等は説明されている。</p>
I-2 計画策定	<p>評価：B 目標や計画については支援員会議、ケア会議等を活用し職員間で共有している。しかし、その目標をどのようにして達成させていくかという具体的な動きは検討中の物も多く、今後も課題となっている。 若く、経験年数の浅い職員が多い職場のため、内容を理解した上で統一した支援を実践するのに苦慮している。経験豊富な職員を指導役として必要な支援を的確に進める実践を行いつつある。</p>
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	<p>評価：B 管理職の役割・責任については職務分掌表にて記載しており、全職員が確認することもできるようになっている。また、年度当初に配布する職務分掌表に各職員の役割を記載し、職員自身が役割を意識しながら業務に従事できるようにしている。しかしながら、説明不足との声もあり、十分な浸透・理解がある状態とは言えない。 管理者が急遽職員間での論議が必要（利用者支援など）と判断した場合には、職員を招集して会議を開催する、また、支援に必要な学習会を開き、即実践の充実を図ることはあった。また、日頃の支援での困り事や悩みなどがあった時に話し合いを定期的に持つようにした。 事業所としての決定事項やリスクマネジメントについては、全体での会議において共有を図るよう取り組んでいる。 業務の合理化・効率化については、勤務のあり方を検討する会議を開催し、スムーズな業務遂行のための改善を行った。</p>

評価項目（中項目）	評 価 結 果
II-1 経営状況の把握	<p>評価：B 研修等に参加し社会福祉事業全体の動向、事業所がある地域の特徴を把握するよう努めている。経営状況の分析は法人本部と相談しながら、改善すべき課題について検討した。</p>
II-2 人材の確保・養成	<p>評価：B 法人の人事担当中心に人材確保のため、人材広告企業等活用し動きを作っている。職員の就業状況(有給休暇の消化率や時間外労働)を把握し、労働状況の改善・働きやすい職場作りを目指して取り組みを行っている。 人材育成の委員会が中心となって研修を企画し、講義やディスカッション、先輩職員との関りが持てる場を作り、研修を通して養成していけるようにした。</p>
II-3 地域との交流と連携	<p>評価：B 新型コロナウイルスの影響を受け、地域との交流事業、ボランティアの受け入れはほとんど行えなかった。福祉運動会やふれあい祭りといった地域との交流イベントもすべて中止となり、地域を巻き込んだ行事もできなかった。 学生の保育実習の受け入れは、4校11名の実習生を感染症対策の徹底をした上で受け入れた。 ボランティアに対しての研修、受け入れにあたってのマニュアルは作成出来ていない。</p>
III-1 利用者本位の福祉サービス	<p>評価：A 各班会議、支援員会議の中で利用者の立場に立った支援とは、という視点での論議を行い、論議内容を事業所全体で確認することを随時行っている。法人で虐待等人権侵害の防止のための手引きやガイドラインを法人で作成し、会議などを通じて全職員への周知を図っている。また事業所や支援者自身が現状見直しをすることを目的とした虐待防止にかかわってのアンケートを実施している。結果は、今後の改善に向けての材料としている。</p>
III-2 サービスの質の確保	<p>評価：B パソコンシステムを利用し、利支援内容の変更も、状況を確認できた上で業務に入ることができている。 また、パソコンだけでなくその時々支援統一を図るためのファイルを作成し、利用者支援で変更があった場合には随時そのファイルに資料を挟み、又は入れ替えすぐに確認できるようにしている。このファイルを作成したことで、煩雑になっていた資料を整理していくことができた。 ケース検討については、困難ケースを中心に随時検討を進めているが、しっかりと時間と人員を割くことが難しいため、今ある困難、課題に対して、今できることを明確にし、支援を統一していくための会議を設定し、定期的に行った。論議された内容を担当職員中心に発信し、職員間で共有し統一した支援を行っていくことが重要となってきた。</p>

評価項目（中項目）	評 価 結 果
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	<p>評価：A</p> <p>サービス開始に向けての情報提供、説明同意について行っている。引き続き利用者や家族へより見やすく分かりやすいものになるよう、検討を重ねている。</p>
Ⅳ-1 利用者に応じた個別支援プログラム	<p>評価：B</p> <p>個別支援計画策定については、半期でのモニタリングを受けてのケア会議にて本人の意向と支援の課題を探ること、実態に応じた支援内容にすることに重点を置いている。また、家族や後見人からの聞き取りも行っている。提供したサービスの見直しや評価については、日々の関わりを通して随時行っている。その際、利用者本人の意向の汲み取りを行うようにもしているが、不十分な面もあるため今後の課題である。</p>
Ⅳ-2 日常生活支援サービス	<p>評価：B</p> <p>高齢化、重度化などで日常生活の支援度が増す利用者が増加してきており、個々の状況に合わせた対応ができるようにまず職員間で支援方法の検討を行うようにしている。また、介助が必要な方に対して不慣れな職員も多く、利用者・職員共無理のない介助を行うため、高齢者施設での勤務経験のある職員や看護師による実践研修を行っている。また、身体介助用補助スーツの導入も検討中である。</p> <p>重度知的障害をもつ人が多い当事業所において、利用者の意向の汲み取りが難しいこともある。自己決定の原則に基づき、モニタリングや、提供サービスの見直しの際に意向の汲み取りをおこなうようにしているが、それ以外で日常の中で利用者の意向を汲み取ろうとする支援者の姿勢が求められている。</p>
Ⅴ-1 生活環境の整備	<p>評価：B</p> <p>全室個室になっており、一人の空間が持てるようになってきている。また、3つのゾーンに分かれているため、小集団での生活の実現はできている。3つのゾーンも利用者の状況の変化に応じて机等の配置を変えたり、共有物品の設置を行った。しかし、利用者個々の状況が大きく異なっており、まだ個々に併せた生活環境整備の検討が必要である。</p> <p>居室掃除については、定期的に行っているものの不十分な箇所もあり、引き続き衛生が保てるように配慮していきたい。</p> <p>設備面でCゾーン居住空間のトイレが男女共用のため今後の改善課題である。また、完全な分煙設備がなく、利用者の喫煙スペースの改善も今後の検討課題である。</p>
Ⅵ-1 緊急時の対応	<p>評価：B</p> <p>主に夜間の火災を想定した避難訓練を定期的実施している。地震想定避難訓練も行った。年に1度は消防署の方に来ていただき、実際の避難訓練の様子を見ていただき、助言していただけるようにしている。水害想定避難訓練については水害危険地域ではないため想定訓練が難しい。専門家に助言をいただきながら実施できるようにしていく。</p> <p>また全職員対象の救急蘇生法講習も年2回開催している。</p>
Ⅶ-1 就労意欲の醸成	無し

* 着眼点の項目等を参考に、具体的な実施（達成）の状況や、未実施の場合はその理由など評価における根拠とともに、今後の改善計画（方針）なども記載してください。

* 「Ⅶ-1 就労意欲の醸成」欄は、授産施設のみが該当します。